

2024年11月5日



各位

会社名 株式会社 ステムリム
代表者名 代表取締役社長 CEO 岡島 正恒
(コード番号:4599 東証グロース)
問合せ先 経営管理部 植松 周平
(電話番号:072-648-7152)

再生誘導医薬®レダセムチド(HMGB1断片ペプチド)ペプチドに関する 特許登録(日本)のお知らせ

当社から塩野義製薬株式会社(本社:大阪市中央区、代表取締役会長兼社長 CEO:手代木 功)へ
導出済みの再生誘導医薬®開発候補品レダセムチド(HMGB1¹⁾)より創製したペプチド医薬、開発コード:
PJ1/S-005151)の用途特許について、下記のとおり日本において特許が登録されることとなりましたので、
お知らせいたします。

発明の名称 : 炎症性腸疾患の治療薬
出願地域 : 日本
出願番号 : 特願2023-114129
登録(公告)番号 : 未定
出願人 : 株式会社ステムリム、大阪大学

本特許は、再生誘導医薬®レダセムチド(HMGB1 ペプチド)の日本における炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病)の治療薬開発の可能性を担保するものであります。

潰瘍性大腸炎は、大腸の内側の粘膜が慢性的に炎症を起こし、潰瘍ができる自己免疫疾患の一種です。この病気は通常、直腸から始まり、炎症が大腸全体に広がることもあり、症状は個人差がありますが軽度から重度までさまざまです。クローン病は、消化管のどの部分にも炎症が生じる可能性がある慢性炎症性腸疾患の一種です。特に小腸と大腸に多く見られますが、口から肛門までの消化管全体に炎症が広がることもあり、潰瘍性大腸炎と同様に、自己免疫反応が関与しているとされます。原因は未解明ですが、遺伝や免疫、環境要因が組み合わさって発症すると考えられています。両疾患とも比較的若い方に発症しやすく、日本の患者数は年々増加傾向にあります。

本特許では、レダセムチドが炎症性腸疾患の動物モデルにおいて、体重減少を抑制する効果、炎症抑制効果、および大腸の短縮や粘膜損傷を抑制する効果を奏することが示されており、ヒトにおいても同様の効果により炎症性腸疾患の治療への貢献が期待されます。

なお、本件による2025年7月期通期業績への影響はありませんが、開示すべき事項が生じた場合には速やかに開示いたします。

以上

1) HMGB1 (High Mobility Group Box 1) : 体内の間葉系幹細胞を患部に誘導する細胞の核内タンパク質の一つ

※「再生誘導」、「再生誘導医薬」、「再生誘導医学」、「再生誘導医療」はステムリムの登録商標です。